

第4回半田市議会定例会決算審査文教厚生委員会委員長報告書

当文教厚生委員会に付託された案件については、9月9日及び15日は午前9時30分から、20日は午後1時から、いずれも委員全員出席のもと、全員協議会室において、慎重審査しましたので、その経過と結果をご報告申し上げます。

認定第1号中、当委員会に分割付託された案件については、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

始めに、一般会計について申し上げます。

当委員会所管の決算全体において、個人市民税減税をはじめとする大幅な税収減により、どのような影響があったか。とに対し、

個人市民税減税に加え、景気低迷による税収減などもありましたが、命と健康を守ることを第一に、事業実施し、福祉サービスに大きな支障をきたしたようなことはありません。しかし、教育施設の耐震補強など、できれば前倒し実施したいところでしたが、それには至らなかったという、反省すべき点もあります。とのこと。

福祉部所管部分では、

決算審査意見書では、福祉部の各課に対する所見に、「よい」の評価がないが、これをどのように捉えるか。とに対し、

福祉の部門は、市民生活全般に関わる事業を受け持っており、これで十分という評価を得られにくい分野であると思っております。「概ねよい」または「見直しが必要」と評価された事業については、「見直しと堅持」を基本に、古くからの制度を見直す一方で、住民生活にとって真に必要な制度については堅持していきたいと考えております。とのこと。

地域福祉計画推進事業では、子どもからお年寄りまで、半田市に住む、すべての人の幸せを目指し、とあるが、計画をどのように推進してきたのか。とに対し、

地域を知ることで人と人がつながり、信頼関係を築くことを目標に、ふくし井戸端会議を実施してきました。平成22年度は初年度で、昼間の開催でしたが、夏休み等の時期には、中学生にも参加してもらうことができました。今後は、夜間の開催や、中学校と時間を合わせて参加を促すなど、幅広い世代の参加をいただくよう工夫してまいります。とのこと。

障がい者医療費助成について、市単独事業の対象者を低所得者のみとする改正を行ったが、その影響は調査したか。とに対し、

対象からはずれた 124 人の方の後追い調査はしておりません。

改正に先だって説明会を開催した折には、批判やお怒りのご意見を多くいただきましたが、制度が始まって以降、医療費が払えなくて困っているなどという相談は受けておりませんので、一定のご理解をいただいたものと考えております。とのこと。

老人クラブ会員数が減っている現状をどう捉えているか。とに対し、

第 5 期介護保険計画に向けたアンケートの結果では、老人クラブに興味があるという割合は高いものの、それが会員の増加に結びついていません。

これまで、交通安全活動に力を入れてきており、立哨などを通じて、老人クラブの活動を P R しながら、地域の皆さんにご理解いただき、加入促進に努める必要があると考えております。とのこと。

老人ホームの運営について、民営化に向けて、平成 22 年度中にどのようなことを協議したのか。とに対し、

実施計画策定に向けての調査として、すでに民営化されている県内 4 市を視察し、移行時の課題や、移行後の経営状態をお聞きしました。また、移行の時期、移管の方法、入所者の処遇改善のための支援策をどうするかなどについて検討してまいりました。とのこと。

生活保護事業について、生活保護費が大幅な増加傾向にある中、どのような方策をとっているか。とに対し、

ケースワーカーが訪問などを通じて、就労の支援など、自立に向けた働きかけをしています。保護開始後の生活支援や指導力が、ケースワーカーには求められていると考えております。とのこと。

予防接種事業について、日本脳炎や小児用肺炎球菌など、副反応の懸念により接種停止された予防接種を再開し、その後の事故等の発生状況はどのようになっているか。とに対し、

日本脳炎は、平成 17 年から副反応で一時中止になっていましたが、再開されて以降、異常は認められていません。また、小児用肺炎球菌ワクチンで異常が発生した例は、もともと病気を持っていたことなども要因の一つであろうということで、再開しました。半田市では、その子の状態を一番理解している主治医での個別接種を実施しているため、より安心ではないかと考えております。とのことでした。

子育て支援部所管部分では、

決算審査意見書における、子育て支援部各課の評価について、どのように捉えているか。とに対し、

幼保一体化の方向性については、幼児を取り巻く幼児教育を、幼稚園と保育園が共通の土台に立って取り組んでいく必要があります。職員の意識の面での幼保一体化も重要であると考えております。また、放課後児童健全育成事業では、市議会からも監査委員からもご意見をいただいておりますが、施設面では、小学校や児童センターなど既設の施設を利用することで公設化を図り、指導員の資質の向上のため、各種研修への参加を促し、指導員の処遇改善については、各クラブでの自助努力をお願いしたいと考えております。とのこと。

遺児手当支給事業の方向性が合理化となっているが、どのような意味か。とに対し、遺児手当は、一人親に対する経済支援ですが、国や県が、手当支給から就労などの自立支援に切り替えてきました。そこで、平成22年度中に、半田市遺児手当についても制度改正しました。そういう意味での合理化です。とのこと。

子ども手当支給費について、総額23億3,840万1千円の内訳は。とに対し、年度末の対象児童数は18,439人で、1年間では、1人当たり1カ月13,000円を、延べ17万9千877月分支給したものです。とのこと。

児童センター管理運営事業について、児童センターの民間委託の今後の方向性について、平成22年度中にどのような議論があったか。とに対し、板山ふれあいセンター民間委託を開始し、児童センター民間委託のあり方も含めて、2年後を目途に検証してまいります。板山ふれあいセンターにおいては、平成22年度中の利用児童数も増えておりますので、一定の成果は出ているのではないかと考えております。とのこと。

保育園では、各園で独自の「保育園経営案」を作成しているようだが、一方で、公立保育園は均一で高品質な保育サービスを提供することができると思っており、矛盾していないか。とに対し、

半田市の保育目標を基本として、各園の特色を活かした経営案を作成しているもので、どの園も統一した目標に向けた経営案となっていると考えております。とのこと。

また、保育園で、平成21年度に比べて、早朝・延長保育に従事する臨時職員が、延べ9人増えているのはなぜか。また、正規職員での対応はできないのか。とに対し、

早朝・延長保育利用児童数が増えているので、配置基準に従って保育士を配置しました。早朝は午前7時30分から、延長は午後7時までの保育が必要なので、正規職員の法定労働時間8時間の中でフレキシブルに対応するため、臨時職員を増員したものです。とのこと。

岩滑こども園が開園して1年経過したが、その評価と今後の課題は。とに対し、

就労の有無にかかわらず、お子さんを受け入れる、教育と保育の狙いをカリキュラムの中で明確にしている、子育て支援室での相談業務や親子のふれあいということでの利用も多い、というような点で、利用者の方には、概ね良い評価をいただいています。課題としては、園児の生活時間の流れが長時間と短時間で異なることや、夏休みや春休みの問題もあり、当初は戸惑いもありましたが、一年かけて工夫をしてきております。園の行事につ

かたいても、短時間の方が参加しやすい時間設定等の配慮が必要になると考えております。とのことでした。

教育部所管部分では、

教育部全体として、平成22年度当初の目標をどの程度達成できたか。また、今後の課題は把握できているか。とに対し、

平成22年度予算の執行にあたっては、概ね予定どおり実施できました。しかし、学校の体育館等の耐震、幼稚園の管理運営、給食センターの広域化、スポーツクラブと部活動の問題、公民館の問題、博物館のあり方など、今後、解決すべき課題は抱えております。とのこと。

「学校教育 HANDA プラン」の基本理念である「人としての根っこを培う学校教育」とはどのようなものか。とに対し、

このプランは、校長先生方との検討委員会で練り上げて作成したものです。人は生まれて、教育というものがあって、成長していくのだと思っています。その根本にあるものは、限られた命をどう生きるのか、ということであります。死ぬまで向上していける人間に育てほしい、自分の命という時間を少しでも他人のために使う生き方をしてほしい、それらをすべての子どもに身につけてほしいという想いが込められています。とのこと。

あいさつ運動推進事業について、非常に重要な施策の一つだと思うが、平成 22 年度までに行ってきた成果と今後の課題は何か。とに対し、

学校評議員会等、地域との会議でも子ども達が大きな声であいさつができるようになったとの意見をお聞きしております。しかしまだ、全員がしっかりあいさつできるわけではないし、知らない人にはあいさつができない、逆に、子どもがあいさつをしても相手からあいさつが返ってこない、などが課題となっています。とのこと。

いじめ・不登校対策事業について、いじめ・不登校になっている人に対して、どのような支援や対策をしているのか。またその成果についてどのように分析しているのか。とに対し、

スクールカウンセラーや心の教室相談員などの人的支援が中心で、児童生徒だけでなく教員や保護者の相談も受けています。22 年度は特に、スクールカウンセラーの増員を図りました。不登校の生徒数は、若干減る傾向にあり、これらの相談事業による未然防止の効果が表れているのではないかと考えております。とのこと。

外国人生活支援事業について、何ヶ国語に対応しているのか。また、事業の方向性を合理化とした意味は。とに対し、

外国人児童生徒のうち、大部分に該当するポルトガル語のみの対応です。22 年度は緊急雇用創出事業補助金を活用した事業でしたが、その後は市単独の予算での実施となるため、経費を削減しつつ、サービスを継続していくという意味での合理化です。とのこと。

体育施設自動販売機設置使用料について、収入が増加したとのことだが、どのような経緯によるものか。とに対し、

こちらが指定する場所に、どういう機械を置いて、何を売り、使用料はいくら払えるのか、を業者に提案させ、条件の良いところと 3 年の契約を締結しました。平成 22 年度は、前年度に比べて 580 万円余の収益増額につながりました。とのこと。

成人式運営事業について、行政主導型から行政支援型になり、素晴らしい成人式であったとの評価も得ているが、行政としては、この成果が何によって生まれたと評価しているか。とに対し、

新成人から、自分たちの成人式を自分たちの手で運営したいとの申し出がありました。教育委員会としては、人は自分だけで大人になったわけではないので、式典は行いたいということで進めてまいりました。主導は新成人、行政は裏方としてどのような支援をしていくことがいいのかなど、お互いに打合せをしながら実施したことが成果として現れたと考えています。今後も、新成人から次年度の新成人へ引き継いでいけるように進めてまいります。とのこと。

図書館・博物館の来館者数が減っている理由は、何であると考えるか。とに対し、

図書館では、インターネットからの貸出予約制度の利用が 11.3%増加し、来館者が減っ

たことも要因の一つではないか、また博物館では、特別展の開催を取りやめたこと、常設展示のリニューアルを開館以来していないことなどが要因ではないかと考えております。また、学芸員や司書という専門スタッフが、図書や展示物の魅力をいかに来館者に伝えていくか、という問題意識を持って取り組む必要があると考えております。とのことでした。

次に、学校給食特別会計について申し上げます。

米の購入について、学校給食会以外での購入についての調査や検討はどのように行ったか。とに対し、

調査は行ってきましたが、独自の購入ルートを見つけることはできませんでした。しかし、半田市内で獲れた米を学校給食に使えるよう、農業経営士会にお願いして実現し、平成22年度中に3回実施することができました。とのことでした。

次に、国民健康保険事業特別会計について申し上げます。

収納率が上がった主な要因は何か。また、一方で1億円余の不納欠損処分が生じたことについて、どのように考えているか。とに対し、

収納向上特別対策を継続してきており、特に22年度、初めての試みとして、督促状発送に合わせて電話催告を行ったことも収納率向上の要因の一つです。また、納めることができなくなった税については、法に従い、執行停止となり、その後3年で不納欠損処分をしていくので、収納向上対策を行っていく上では、やむを得ないものであると考えております。とのこと。

短期証が増えて、資格証が減っているのはなぜか。とに対し、

2年に1回の保険証更新時には、滞納の有無を確認するので、この更新時には一時的に短期証が増え、それから徐々に減っていくという傾向があります。平成22年度は保険証更新を実施したので、短期証の発行が増えたものです。とのことでした。

次に、後期高齢者医療事業特別会計について申し上げます。

保険料滞納者への対応はどのようにしているか。とに対し、
電話催告や、窓口相談、お宅への訪問など、早めのきめ細やかな対応に心がけており、
短期証は一部発行しておりますが、資格証の発行はしておりません。とのことでした。

以上のような質疑を行った後、討論を省略し、一般会計と5件の特別会計を採決しました。

平成22年度半田市一般会計の歳入歳出決算のうち、当委員会に分割付託された案件については、挙手により採決した結果、賛成多数をもって、認定することに決定しました。

次に、平成22年度半田市学校給食特別会計歳入歳出決算については、
挙手により採決した結果、委員全員をもって、認定することに決定しました。

次に、平成22年度半田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算については、挙手により採決した結果、賛成多数をもって認定することに決定しました。

次に、平成22年度半田市老人保健事業特別会計歳入歳出決算については、採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、平成22年度半田市介護保険事業特別会計歳入歳出決算については、挙手により採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、平成22年度半田市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算については、挙手により採決した結果、賛成多数をもって、認定することに決定しました。

以上、ご報告申し上げます。